

西海ブロック水産業情報

NO. 67 (平成21年10月～12月)

増養殖情報

山口県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県
<p>●10月上旬に、アカアマダイ天然魚より採卵し種苗生産試験を実施した。12月中旬までに、25～32mm種苗約5.5万尾を生産した。現在中間育成中。</p>	<p>●かき養殖:順調に生育 ●わかめ養殖:順調に生育 ●ノリ養殖:10月19日採苗開始。11月14日から冷凍入庫開始、11月21日から初摘採開始。秋芽網は4～6回の摘採を行い、12月20日までに網撤去。秋芽網生産は3.6億枚、5.2億円、単価9.85円。12月26日から冷凍網出庫。 ●かき養殖:成長、見入りともに良好。豊漁となる見通し。</p>	<p>【水産増養殖関係】 ●アゲマキの囲繞堤を使用した底質改善試験、タイラギ干潟移植試験、養殖マガキモニタリング調査、放流アゲマキ追跡調査、 ●天然採苗カキ及びサルボウ濾水速度試験、天然採苗カキ、サルボウ浮遊幼生・稚貝発生状況調査 ●沖合域におけるモガイ殻 散布耕耘試験 ●今漁期の採苗は、水温が平年よりやや高い傾向が続いたため、例年より10日間ほど遅い10月18日から開始され、21日までにほぼ順調に終了した。 ●日照不足や低水温の影響による生長不良やアカグサレ病の被害が生じた中で、12月23日まで秋芽網期の生産が行われた。 ●秋芽網期の生産状況は、生産枚数5.7億枚、生産金額63.8億円、平均単価11.23円となり、枚数、金額共に平年(H5-20)よりやや上回る結果であった。 ●冷凍網期の生産は、東・中部地区および南部地区の一部が12月26日に冷凍出庫され、開始した。(西部地区では1月9日の出庫である。) ●シンクロトン光によるケンサキイカ平衡石の分析 ●クエ、オニオコゼの放流、追跡調査 ●クルマエビ、アワビの放流と追跡調査 ●エチゼンクラゲを、8月7日に初認。9月上旬に週間最大となり、その後減少、10月中下旬には再増加し、12月上旬まで出現継続したが、12月中旬以降は、確認されていない。直接的な被害は出ていない。</p>	<p>【標識放流】 効果的な放流手法の確立するためホシガレイ2万尾(11月:全長11cm有明海1箇所、12月:全長15cm有明海3箇所)について標識放流を行った。 【種苗生産】 ●アカアマダイ:12月上旬に全長20～40mmの稚魚約2万尾を生産した。 ●メイタガレイ:11月から有明海で漁獲された天然魚の成熟調査を実施し、12月には天然親魚雌の多くの個体に排卵が確認されたことから、これらを用いて採卵試験を実施中である。 ●タイラギ:種苗生産・移植等の技術開発を実施している。 ●マガキ(シングルシード):種苗量産技術開発と試験養殖などを継続実施している。</p>	<p>●クルマエビ類の急性ウイルス血症(PAV)の発生が確認されなかった。</p>

鹿児島県	宮崎県	大分県	沖縄県
<p>●11月初旬、奄美大島でスジアラを放流。今年度生産した30千尾(約4cm)のうち、当センターで引き続き中間育成していた7千尾(全長約10cm)を放流。 ●11月中旬、サバヒー種苗生産試験を終了。本年度は56千尾(平均全長17mm)を生産。 ●11月中旬、指宿沖でブリの標識放流を実施。放流尾数は700尾、サイズは尾叉長31～42cm。 ●12月初旬より、南さつま市笠沙町片浦周辺地先に藻場造成に関するバイテレ調査を再開。発信器を装着したアイゴ12尾(全長28～40cm)を放流。 ●ノリ養殖については、11月2日に採苗を始め、育苗期は順調であったが、12月に赤ぐされ苗が確認された。</p>	<p>●11月より、現場筏上でリッテルボヤの種苗生産試験開始。12月上旬に産卵を確認(自然産卵)、シュロ縄を撒いたクレモナローブ製の養殖器上に12月現在、推計10万個体以上を採苗。 ●京都宮津栽培漁業センターからアカアマダイ稚魚、全長50mm、3,000尾をトラック活魚タンクで輸送した。(輸送時間21時間)。昨年は輸送時大量死亡(全長35mm、2,000尾、死亡率36%)したが、今回そのような死亡はなかった(死亡率1%)。</p>	<p>別府湾・豊後水道 ●赤潮発生状況 10月 1件(構成種 メソデニウム・ルブラン) 11月 0件 12月 1件(構成種 メソデニウム・ルブラン) ●貝毒発生状況 10～12月 毒化事例なし</p>	<p>特記事項なし</p>